

へいそくおけえ

■曾於市の文化財散歩(十二)

「上勢井城とおんづどん」



上勢井城跡の五輪塔群

月野は古くから開けたところで、下岡の小高い丘から長治二年(一一〇五)の青銅製の経筒が出土した所でもある。この経

筒は貴重なもので東京国立博物館に保存されている。

月野中学校跡の後の丘は槻野城跡で、一方月野川をはさんで上勢井集落の上の八合原に連なる丘も上勢井城と呼ばれている山城跡である。つまり月野盆地をはさんで両側に城を築いて月野を守る形を取っている。

県道志布志福山線を志布志へ向かって行くと野上田林業の手前から上勢井へ下る道路がある。この道路沿いの丘が上勢井城跡で、下り坂にかかった所から右に山道があり、その道を五〇〇メートルほど行くと、道の左下に残欠まで合わせて一〇〇基ほどの五輪塔群がある。ここは城内で、土橋も空堀も残っている。中世、月野から

伊屋松に掛けてこの一帯は島津氏や肝付氏・新納氏などで度々戦いがあつたところで、時代は分らないが石塔はその名残であらう。

石塔群の側に大きな礎石が並んでいるが、ここに堂があつたと思われる。修験僧(山伏)が住んでいたのであらう。上勢井集落の人たちには毎朝山の上から修験僧の発する奇声が聞こえたという。それは読経か呪文と思われるが、その奇声はおんどりが早朝発するときの声に似ていたのであらう。「おんどり殿」とあだ名を付けたという。

方言で「おんどり」は「おんづ」、「めんどり」は「めんづ」と言っていたが、この僧に対するあだ名が「おんどり殿(おんづどん)」であつた。今はこの方言も使われていない。

また上勢井の阿弥陀如来記によると鹿兒島から志布志へ本尊を遷座することになり福山から月野の上まで運んできた突然重くなり、仕方なく上勢井の山に安置したという。上半身が残っているというが、堂の付近を探しても見つからない。

曾於市文化財保護審議会委員

中島 勇三

